



**Agency Contact:**

David Moreno

**MCA**

Tel: +1-650-968-8900, ext. 125

E-mail: [dmoreno@mcapr.com](mailto:dmoreno@mcapr.com)

**NVIDIA 社と XILINX 社より業界ベテランがアドバイザーとして EBEAM INITIATIVE メンバーに加わる**

SAN JOSE, Calif., 2013 年 2 月 19 日—電子ビーム (eBeam) 技術を利用した半導体製造の新手法の普及と促進を目的したフォーラムである eBeam Initiative は、本日、二人の半導体業界ベテラン、NVIDIA 社 vice president of technology and foundry management である John Chen 氏および Xilinx 社 vice president of platform and solution marketing である Hugh Durdan 氏 をアドバイザーメンバーとして eBeam Initiative に迎えたとアナウンスした。両名が加わったことにより eBeam Initiative のアドバイザーおよび企業会員数は 4 4 となった。eBeam Initiative は、上記に加え、本日、半導体業界内での eBeam 技術啓蒙活動の追加ステップとして “*The Fine Line*” をビデオジャーナルとして発表した。

eBeam Initiative の事務局である D2S, Inc. 社の CEO Aki Fujimura 氏は以下のように述べている、“John Chen 氏および Hugh Durdan 氏は eBeam Initiative に豊かな経験を持ちこんでくれるでしょう。業界に対する彼らの洞察力、特に半導体ファブレス会社の持つニーズやダイナミズムに関する洞察力は、将来の半導体サプライチェーンシステム (ecosystem) に必要不可欠なものとして取り込まれた形での eBeam 新技術の開発と商業化を主導する eBeam Initiative にとり貴重なものとなるでしょう。”

Fujimura 氏はさらに “eBeam 技術に関する最新の開発内容やブレークスルー技術に対する見通しを業界リーダーの方々に語って頂くビデオジャーナル *The Fine Line* を本日ご紹介できますことを真に喜ばしく思います” と述べた。 *The Fine Line* の創刊号はウェブサイト [www.ebeam.org](http://www.ebeam.org) に掲載されている。

Chen 氏は、垂直統合型デバイス企業（IDM）、ファンダリ企業およびファブレス企業を跨ぐ半導体業界での 36 年の経験を持つ。2004 年に NVIDIA 社に入社する前は、FlexICS 社、TSMC 社、WaferTech 社および Cypress 社にて重役を歴任している。TSMC 社では、先端マスク製造やその他の領域を含む責任者として、副社長兼技術開発部門長であった。それ以前では、Hughes Research Lab や Xerox Palo Alto Research Center にて直接描画技術（e-beam direct writing）を含む CMOS 技術開発に貢献し、100 件以上の論文を執筆、また、書籍“*CMOS Devices and Technology for VLSI*”も執筆している。Chen 氏は、CMOS デバイスおよびプロセス技術に対する貢献と指導力により、IEEE フェローに 1992 年選任されている。Chen 氏は、National Taiwan University の電子工学（electrical engineering）学士、University of Maine の電子工学修士、および、の電子工学博士を有する。Chen 氏は、また、UCLA Executive Engineering Management Program の修士を有する。以前は台湾 Industrial Technology Research Institute (ITRI) の技術アドバイザーであり、現在は数々の学会関係理事、企業取締役を兼任している。

Durdan 氏は現在 Xilinx 社にて製品仕様、設備および IP マーケティングの責任者である。Xilinx 社の前は、年商 120 million 米ドル（約 110 億円）の eSilicon 社に 7 年おり、全社戦略、顧客成功体験構築（customer success）、売上、利益の全責任者である COO を最後に任されている。その前は、一般ユーザ向けおよび業界向けコンピュータを扱う、年商 550 million 米ドル（約 500 億円）の Altera 社にて、副社長兼事業部長であった。その前は、LSI Logic 社にて、コンピュータ・ストレージ事業部および一般ユーザ向けコンピュータ事業部の副社長兼事業部長などを含む上級管理職を歴任している。Durdan 氏はまた、Digital Equipment Corporation (DEC) 社にて Intel ベースのサーバ商品のハードウェアおよびソフトウェア開発チームの責任者であった。Durdan 氏は Rensselaer Polytechnic Institute のコンピュータおよびシステムエンジニアリング（computer and systems engineering）の学士を有する。

About The eBeam Initiative

eBeam Initiative は電子ビーム (eBeam) 技術を利用した半導体製造に対する新しい手法の普及と促進を目的としたフォーラムです。Initiative のゴールは、半導体業界のエコシステム中で eBeam 技術に対する投資を喚起しつつ、より多くの集積回路 (IC) 設計を可能とし、より速い商品開発期間 (faster time-to-market) を実現する技術の導入を可能ならしめることにあります。 eBeam Initiative はメンバー企業、アドバイザー、およびステアリング委員会から構成され、半導体関連の全分野の機関が参加しており、米 Abeam Technologies、株式会社アドバンテスト、台湾 Alchip Technologies、独 AMTC、米 Applied Materials、米 Artwork Conversion、仏 Aselta Nanographics、米 ケイデンス・デザイン・システムズ、仏 CEA/Leti、米 D2S 社、大日本印刷株式会社、独 EQUIcon Software GmbH Jena 社、株式会社イー・シャトル、米 eSilicon Corporation 社、米 Fastrack Design 社、独 Fraunhofer CNT、富士通セミコンダクター株式会社、独 GenISys GmbH 社、米 グローバルファンドリーズ社、米 Grenon Consulting、HOYA 株式会社、独 IMS CHIPS、獨 IMS Nanofabrication AG 社、日本電子株式会社 (JEOL)、米 KLA-Tencor 社、米 Mentor Graphics Corporation、Multibeam Corporation、日本コントロールシステム株式会社、株式会社ニューフレアテクノロジー、NVIDIA 社 John Chen 氏、米 Petersen Advanced Lithography 社、米 PMC-Sierra 社の Colin Harris 氏、米クアルコム社の Riko Radojcic 氏、韓国サムスン・エレクトロニクス社、印 SoftJin Technologies、仏 STMicroelectronics 社、米 Synopsys 社、米 tau-Metrix 社、米 Tela Innovations 社、TOOL 株式会社、凸版印刷株式会社、独 Vistec Electron Beam Lithography Group、米 Xilinx 社 Hugh Durdan 氏 が含まれます。また、本イニシアティブは、エレクトロニクス業界におけるあらゆる企業および機関に対し、幅広く参加を募っています。詳しくは URL : [www.ebeam.org](http://www.ebeam.org) を参照ください。

###